

【ゲーム（低・中）】

全員がゲームの楽しさを味わいながら、
友達との関わりを通して技能を高めようとする児童の育成
～「タグラグビー」の実践を通して～

鳥取市立青谷小学校 田中 敏智

1 はじめに

中学年にもなると、児童は自分の動きを友達と比較したり技能が身につくかどうかを客観的に判断したりして、徐々に得手不得手を自覚し始めるようになる。さらに学年が上がれば、その「自覚」により学習に対する参加態度や意欲に差が表れることが多くなる。体育学習では技能の獲得は大切なことであるが、運動の楽しさを味わい楽しんで運動に親しむ資質や能力を身につけることも同様に大切なことである。得手不得手の自覚が始まるこの時期に、運動離れの原因にならないようにするために、楽しさを味わうことに軸足を置きつつ、友達との関わりを通して技能を高めることでできた喜びを得られるようにし、それがまた楽しさに結びつくように願い、今回の研究を行った。

2 研究の実際

(1) 学習過程の工夫

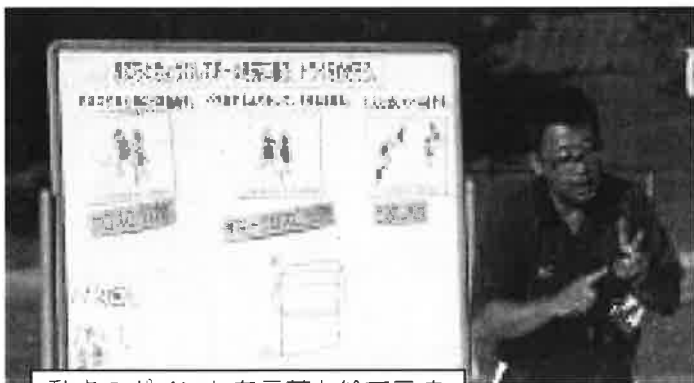
タグラグビーは、児童にとって初めて取り組む運動である。取組の仕方によって、誰もが楽しめる単位になるかどうか、決まってくると考える。そこで、単位を通して常に4～5人のゲームを中心に学習を展開した。これは、運動の特性にふれながら技能の獲得が期待でき、同時に楽しさを味わえるようにするための基本スタンスとして、自身が取り組んでいることである。さらに、タグラグビーの特性からプレー中の友達同士の関わり合いが増えていくことも期待した。細かい動きの習得は、少人数での練習が必要な場面もあり、それらは単元の前半、またゲームとゲームの間のチーム毎の練習で取り入れることとした。



(2) 学習内容の明確化

1 時間の学習の流れを、ウォーミングアップの後、ゲーム1、個別（チーム別）練習、ゲーム2として単位を通して行い、また、その日の対戦相手や練習内容、そこに向かうためのめあてなどを学習カードやボードに絵や言葉で示すことにより、見通しを持ちやすくなるようにした。さらに、最後の時間は、「タグラグビー大会」を行うことを告知することで、意欲の高まりにつながると考えた。

(3) 効果的な指導



動きのポイントを言葉と絵で示す

レッツ エンジョイ！ タグラグビー ⑤

(/) 組 番	
学習のめあて！ ★ゲームを練習できるようにして、タグラグビーを楽しもう。	
学習の展開で ①めあてを確認し、きょうのめあてを確認し、そのゲームのめあてを確認する。	
学習のゲーム ●基本ゲーム①（タグラグビー） ●めあてを確認し、きょうのめあてを確認する。 ●ゲームのめあて（タグラグビー、ドラッグラグビー、ソフトラグビー） ●めあてを確認し、きょうのめあてを確認する。 ●ゲームのめあて（タグラグビー、ドラッグラグビー、ソフトラグビー） ●めあてを確認し、きょうのめあてを確認する。	
ゲーム①	ゲーム②
(A) 〇	(B) 〇
(B) 〇	(A) 〇
めあてを確認し、きょうのめあてを確認する。	
(1) よく頑張る	で頑張る
がんばろう	

めあてを示した学習カード

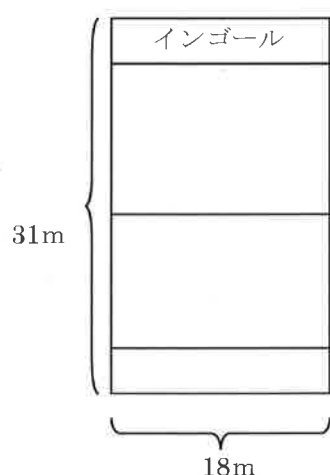
①ICT の活用

初めて取り組む運動であることから、第1時の学習前にタグラグビーのビデオを見て児童がイメージしながら取り組めるようにした。全国大会でのレベルの高いゲームばかりでなく、他校の体育学習での様子を見せることで、児童は具体的なイメージを持ちやすくなると考えた。

また、学習の後半には、同じビデオをもう一度見せ、さらに自分たちのプレーの様子をビデオに撮ったものを見せることで、これまで自分たちがやってきたことを確認できるようにした。

②場の設定の工夫

- ◆本校体育館はバレーボールコート1面分しかとれない。十分な運動量を確保するためには、校庭の使用（コート2面）が必須である。
- ◆児童全員が同時に試合ができるようにするためにセルフジャッジに取り組んだ。
- ◆インゴールに置くコーンは、各チームのビブスと同色となるようにし、練習場所が視覚でとらえられるようにした。



攻撃前の内緒の相談



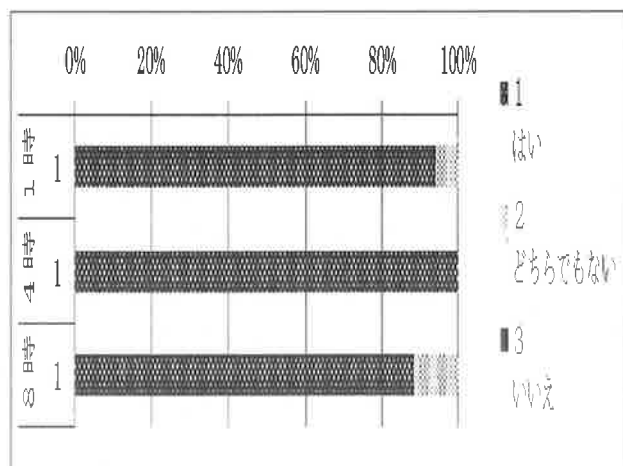
試合前の攻撃の確認

(4) 言語活動の充実

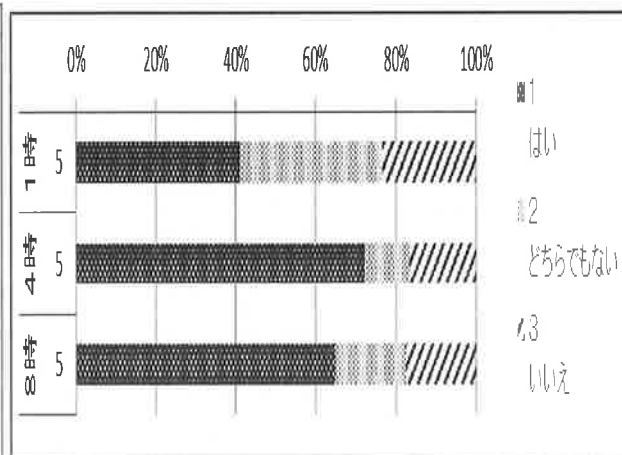
特に単元の後半、ルールや作戦を工夫する時に話し合いの場を持った。単元の前半で練習してきたことを、どうすれば試合の中で生かせるか考えさせながら話し合わせた。

(5) 形成的評価

毎時間アンケートをとり、その都度次の学習に生かしたいものであるが、今回は、単元の始め・中・終わりにとることで、自らの取組がどうだったのかを振り返る検証の材料とすることにした。



項目 1 楽しかったですか



項目 5 できるようになりましたか

- ◆ 1 の関心・意欲に関わる項目は、単元を通して高いパーセンテージを示した。
- ◆ 5 の技能に関わる項目では、最終時はやや下がったが、1 時間目以外は比較的高い数値を示した。

3 成果と今後の課題

- ゲームを中心に学習を展開することは、楽しむという点においてとても有効である。ボールを扱うことが苦手な児童も得意な児童も、プレーをしながら自分の能力に合わせて楽しむことができた。
- 導入直前の ICT の活用により、児童は興味をもって学習に取り組むことができた。さらに単元後半でのビデオ視聴は、チームのレベルアップに向けての話し合いの活性化につながり、よりよい動きの習得につながった。
- 場の設定の工夫により、練習やゲームなど運動時間の確保につながった。また、広いコートを活用することで、ボールを持っている味方の児童について走ってボールを受けたり、離れたところにスペースを見つけて走って行ったりするなど、技能の習得につながった。
- 作戦を話し合う活動を通して、トライされた後に次の攻撃を始める前に相談するチームが見られた。いいこととして全体に紹介することで、ゲーム中の短時間の相談の姿が多く見られるようになった。
- 運動時間の確保のためにも話し合いの時間は短くしたいが、話し合いの中身が薄くなつては意味がない。そこで攻撃に重点を置いて学習を進めたため、守り方について意識させるには至らなかった。
- 個人の能力を生かすための動きについては、まだまだ考えがおよばない。今回は練習の様子を見ながらアドバイスをしたが、味方の友達同士で互いの特長を認め合いながら、ゲームに生かせるような学習の展開を工夫したい。

～児童の感想より～

- 大きな円をえがいてトライすることができました。さいきん、トライを決めれるようになったので、これからもいろんな動きで上手にトライを決めたいです。
- 今日とはぼしパス作せんをしようとチームで決めました。練習のときはできたけど、本番になるとできなかったから、きんちょうせずになんばりたいです。
- 今日のわざはできなかったけれど、友だちと声をかけ合いみんなできょう力できたのでよかったと思います。次もみんなできょう力して、わざもつかってなんばりたいです。

～授業研究会通信より～

○授業の様子

子どもたちがタグラグビーの学習を楽しみにしているわくわく感が伺えました。主運動につながる運動からゲームに至るまで、子どもたちは生き活きと活動しており、特に、トライに向かって一生懸命な姿が見られ、タグラグビーの醍醐味を味わいながら学んでいました。運動量の確保や様々な工夫もあり、まさに勢いのある体育学習。田中先生、本当にありがとうございました。

○主な協議内容

- ・教師のねらっていることと、子どもたちの意識や動きがどうであったか。今回は、友達と協力して攻撃していくことをねらっていたが、協力した攻撃を子どもたちに理解させ、意識させ、実際に使わせるとなると、難しい面がある。理想は、学んだ攻撃方法が実際のゲームの中で生かされることである。
- ・ねらいに迫る攻撃の仕方を身に付けさせるには、攻撃において子どもたちの困り感が必要ではないか。その攻撃のよさを練習場面を通して体感させていくことが大事。
- ・教え合いの場や作戦タイムを効果的に位置づけていくことが必要ではないか。みんなで共有を図って攻撃を実行すること。

○主な指導助言

- ・必要感が作戦になり、必要感が知識や技能になる。本時に身に付けさせたい力（本時で言えば戦術）は、子どもたちの必要感によって初めて身に付いていくもの。
- ・ゲーム領域は、ルールによって動きが変わってくる。本時のめあてに向かっていけるルールである必要がある。攻撃方法とルールを平行して検証していくことがよい。
- ・体育学習における言語活動は、話し合いや教え合いばかりでなく、実際に動いているときに声かけられることも重要。

<領域テーマ>

「全員がゲームの楽しさを味わいながら、友達との関わりを通して技能を高めようとする児童の育成」

1 単元名 タグラグビー（ゴール型ゲーム）

2 授業作りの構想

(1) 運動の持つ特性

○タグラグビーはラグビーを簡易化したゴール型のボール運動である。ラグビーに見られる危険な体の接触を禁止し、代わりに腰に付けたタグを取ることでディフェンスを行うため、男女関係なく安全に楽しめる、言わばボールを使った陣取りゲームである。また、ボールを持って走ることができるため、技能的にも比較的易しく、戦術的な指導が行いやすい運動である。広いコートで走り回るため、運動量が十分に確保できる運動である。ボールを前にパスしてはいけないという独特のルールから、他の球技に親しんだ経験のある児童にとっては難しさを感じる事が予想される。

(2) 児童の実態

○男子 11 名、女子 7 名、計 18 名。運動や外遊びを好み、積極的に体を動かして楽しむ児童が多い。
○スポーツ少年団に所属する児童が数名おり、その子らを中心にボール遊びを姿がよく見られる。
○女子はボールを投げたり受けたりすることを苦手としている児童が目立つ。
○アンケートでは、全体育育学習が好きだと答えているが、苦手なことに対しては一生懸命取り組めない姿も見られる。
○「やったことがない」「体が鍛えられそう」との理由から、ラグビーに興味を示す児童が少数いる。

(3) 運動（学習内容）の系統

第 1・2 学年

Ｅ ゲーム
ア ボールゲームでは、簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによって、的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームをすること。
イ 鬼遊びでは、一定の区域で、逃げる、追いかける陣地を取り合うなどをすること。

第 3・4 学年

Ｅ ゲーム
ア ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作やボールを持たないときの動きによって、やさしいゲームをすること。
イ ネット型ゲームでは、ラリーを続けたりボールをつないだりして易しいゲームをすること。
ウ ベースボール型ゲームでは、蹴る、打つ、捕る、投げるなどの動きによって、易しいゲームをすること。

第 5・6 学年

Ｅ ゲーム
ア ゴール型では、簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防をすること。
イ ネット型では、簡易化されたゲームで、チームの連携による攻撃や守備によって、攻防をすること。
ウ ベースボール型では、簡易化されたゲームで、ボールを打ち返す攻撃や隊形をとった守備によって攻防をすること。

(4) 単元の目標

【技能】基本的なボール操作やボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。

【態度】運動に進んで取り組み、規則を守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気をつけたりすることができるようにする。

【思考・判断】規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を立てたりすることができるようにする。

(5) 学びへの働きかけ（指導の意図）

- ・単元構成については、学習全体を通して常に4～5人のチームでのゲームを中心に行う。1時間の学習を大きく前半のゲームと後半のゲームに分け、その間にめあてに向けての動きや工夫を考えたり練習したりすることで、運動の特性に触れながら楽しめるようにするとともに、技能の習得や友達とのかかわりの場がもてるようにしたい。
- ・毎時間のはじめには、準備運動を兼ねてボールの操作やゲーム中の動きにつながる運動を取り入れるようにする。その際、単元の前半では、準教科書の「やってみよう」のコーナーを参考にする形で教師側が提示しながら行い、後半では前時までの活動を振り返りチームごとに動きの練習を想定しながらボールを扱ったり体を動かしたりできるように考えさせることで、チーム内での話し合いの場を持たせ意欲を高めたい。
- ・ほとんどの児童が初めて取り組む球技なので、単元のはじめには、「ボールを持ったら前に走る」「タグをとられたら味方にパスを出す」の動きが身につくよう、少人数でのゲームを取り入れたい。また、チームで行うゲームでは必要に応じてゲームを止めてルールを確認したりボールや人の動きを確認したりするなどして、運動の特性にせまれるようにしたい。
- ・ゲームに慣れるまでは教師が審判を務めるが単元の後半にはセルフジャッジができるようにしたい。

(6) 単元の流れと評価の計画

		わかる	できる			挑戦する			まとめ
		1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時
	主なねらい	学習の進め方を理解しよう。	ルールやボール操作、動き方に慣れ、タグラグビーを楽しもう。			ルールや作戦を工夫してタグラグビーを楽しもう。			学びを生かしてタグラグビーを楽しもう。
	核となる学習内容	・学習の進め方 ・ルールの確認 ・ゲーム	・ミニゲーム ・ゲーム	・いろいろな動き方①（個人） ・ゲーム	・いろいろな動き方②（仲間） ・ゲーム	・ルールの工夫 ・ゲーム	・作戦の工夫 ・ゲーム	・ルールと作戦の工夫 ・ゲーム	タグラグビー大会
	学習活動（わかる・できる・ためす）	○オリエンテーション ・ルールの説明 ・チーム編成 ・ボール運びや動きの確認 ・ゲーム	・準備運動をかねた、ボール操作や動きを意識した練習（準教科書「やってみよう」を中心に行う。） ・2対1 ・3対2 ・ゲーム			・準備運動をかねた、ボール操作や動きを意識した練習（チームごとに考えて行う。） ・ルールの確認と決定 ・ゲーム① ・ゲームの振り返りと新たなルールの確認 ・ゲーム②			・リーグ戦 ・セルフジャッジ
計画評価の	関	①	①		②	②			③
	思					①	②	②	
	技		②	①	①				①

具 体 的 な 評 価 規 準	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
	① ゴール型ゲームに進んで取り組もうとしている。 ② 規則を守り、友達と励まし合って練習やゲームをしようとしていたり、ゲームの勝敗の結果を受け入れようとしていたりしている。 ③ 用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。	① ゴール型ゲームの行い方を知り、楽しくゲームを行うことができるプレイヤーの数やコートのつくり、プレー上の制限、得点の仕方、ゲームや練習をするときの規則などを選んでいる。 ② ゲーム型の特徴に合った攻め方を知り、簡単な作戦を立てている。	① コート内で攻守入り交じって、ボールを手で操作したり、空いている場所に素早く動いたりしてゲームをすることができる。 ② 陣地を取り合って得点ゾーンに走り込むゲームをすることができる。

3 本時の学習 (4/8)

(1) 目標

○トライ (インゴールに走り込みボールをタッチ) するために、友達と協力してボールを前に運ぼうとすることができる。(技能)

○友達と協力しながらボールを前に運ぶ動きを練習することができる。(関心・意欲)

(2) 準備

ライスボール、タグ、ベルト、ビブス、作戦カード

(3) 展開

学習の段階	学習活動と予想される児童の反応	○指導上の留意点・支援 ★評価 (方法)
ひらく	1 準備運動 ・パス回し競争 ・金魚ラン&パス ・1対1トライゲーム 2 本時のめあての確認 友達と協力してボールを前に運び、トライをめざそう。 どうすれば、友達と協力して相手ディフェンスをかわしてトライに結びつけることができるか考えながら、ゲーム①をしよう。 3 ゲーム① ・A対B ・C対D どうやって攻めれば、協力しながら相手の守りをかわしてトライできるだろう。	○すぐに活動ができるよう、授業前にビブスを着たりタグをつけたりさせておく。 ○ゲームにつながる運動を取り入れることで、ボールの扱いに慣れさせたり、動き方を身につけさせたりできるようにする。 ○準教科書を参考に、どんな動きができるか考えさせたあとでゲームをする。 ○2面のコートを使い、それぞれゲームを行わせる。ゲームはセルフジャッジとし、得点はつけない。また、勝敗も重きを置かないこととする。 ○ゲームの中から見つけたよい動きや準教科書の図を参考にしながら、協力してボールを前に運ぶ方法を考えさせる。 ○準教科書に提示されているものを、攻撃の名前をつけて紹介すること、で、興味を持たせる。 ○それぞれの動きを、実際に代表児童にさせることで、視覚でとらえやすくする。 ★友達と協力しながら、声をかけ合ってボールを前に運ぶ動きを練習している。(関心・意欲)
チャレンジする	4 めあてにつながる動きの確認 どうすれば友達と協力して相手手をかわせるか話し合う。 ・準教科書の図で説明 ・友達のゲームを見て、よかった動きを発表 ・教師の説明 ○クロス攻撃 ○ダミークロス攻撃 ○とばしパス攻撃 チームでやりたい攻撃の仕方を選び、練習する。 交差して走りこむと、相手をかませそうだよ。 5 ゲーム② ・A対D ・B対C トライをした児童が得点をつける。 ・教員がジャッジをする。 だますふりを上手にしないとかわせないな。 受けるのが上手にできなくて、トライにつながった 6 振り返り ・学習カードに振り返りを記入する。 ・振り返りをもとに、うまくできた攻撃について発表する。 遠くにパスをするのはむずかしいな。 ダミーが互いに上手にできて、相手をかわせたよ。	○コートと協力して試合をする。 ○「ボールを持って前走る」ことを確認した上で、相手が走ってきたら練習したチームでの動きができるよう声かけをする。 ・ゲームの中で練習した動きが見られたら、称賛する。 ★友達と協力してボールを前に運ぶ動きをすることができ。(技能) ○できたこととやできなかったことを確認し、次時の意欲につなげる。

児童のつぶやき

言葉かけ・教え合い

様となる言葉かけ